



医療法人 善信会 しまぶくろ歯科医院

理事長より

令和8年、2026年がスタートしました。午年の今年は「力強く駆け抜ける馬」のように物事が発展し、幸運が舞い込む縁起の良い年とされ、事業の発展や努力の成就が期待できます。素晴らしいですね！皆様にとって、ついに、今年成就すること、それは何でしょうか？

当院は今の場所に移転しましてお陰様で今年6月で10周年を迎えます。これからの10年も、皆様のお口の健康の維持を支援し、健全な生活が続くことに貢献できる働きを継続して、当院が存続できますように、スタッフ一同で頑張っていきたいと思います。何卒よろしくお願いいたします！



『歯の神経』

歯科衛生士：矢田 ひかり

虫歯が大きく進行すると、神経を取らないといけなくなります。でも、神経を取り除くと辛い痛みがなくなるので、「神経なんてなくてもいいのでは？」と思う人もいるかもしれません。ですが、神経には痛みを感じるだけでなく、他にも重要な働きがあります。

1. 歯に異常を知らせる働き

歯に虫歯ができている時など、異常が起きていることを痛みとして知らせてくれます。

2. 歯を防御する働き

血液中の白血球は侵入してくる細菌と戦ったり、外部からの刺激から神経を保護するために歯の壁の内側から歯を厚くしたりなどして、神経を外部からの細菌侵入や異常な刺激から守ります。

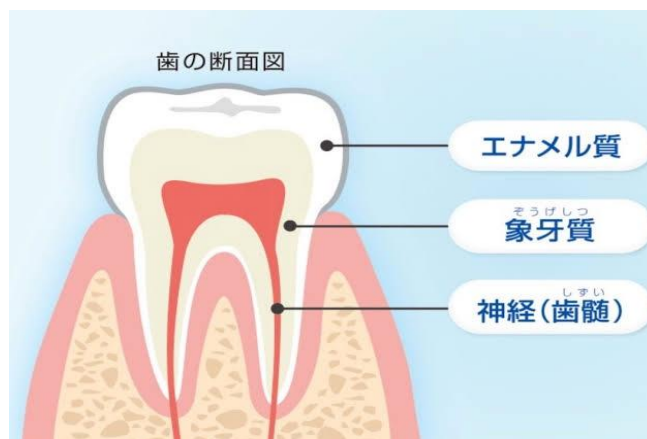
3. 歯に栄養を与える働き

神経と一緒にある血管は歯に栄養を送る働きをしています。これにより強い力がかかっても簡単に割れたり折れたりしないようになっていきます。

このように、歯の神経にはとっても重要な働きがあるのです！

歯の神経を取るほど、大きな虫歯にならないように定期検診を受け、毎日の歯ブラシや歯間ブラシもしっかり行ってくださいね。

分からないことがあれば、当院ドクターや歯科衛生士になんでも聞いてくださいね。



☆裏ページでは、歯の神経を取る場合の治療方法について詳しく説明しています！



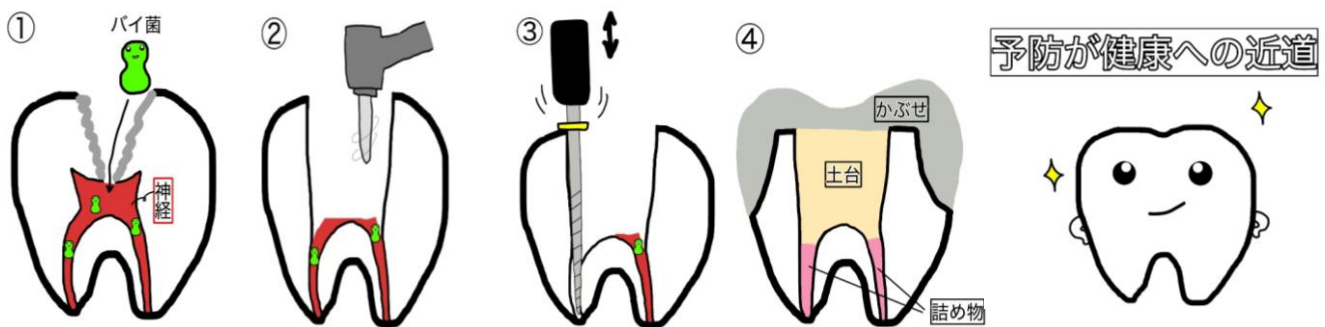
『歯の神経を取る治療とは』

歯科医師：池澤 遼一

これを読んでいる人は歯の関心が高く、日ごろから虫歯や歯周病の予防がしっかりできている人が多いと思います。なので、今まで大きな虫歯や歯が欠けたりして、神経をとった経験がないもしくは少ない人が多いかもしれませんね。「歯の神経をとります」「根っこの治療をします」と言われても、いまいちどんなことをされているのかわからないと思います。そこで、今回はどのように治療しているのか、治療によってどうなるのかについて説明していきます。

- ① 虫歯で歯の神経までばい菌が侵入してしまった場合、ばい菌を取り除くために神経ごと取り除く必要があります。
- ② 歯の中の汚れた神経をとるためにまず歯の頭の部分を削って器具や洗浄液を入れる経路を作ります。
- ③ 次に根っこの中にある汚れた神経をとります。
- ④ 歯の中が空洞だとばい菌の繁殖場所になってしまうので、ばい菌が増えないように根っこの中を詰めます。その上の土台とかぶせをします。

この治療で歯の中のばい菌をとって痛みがなくなりまた噛めるようになるメリットがある一方、歯が薄くなって割れやすくなるデメリットがあります。虫歯にならないように予防が大切です。



『入れ歯ができるまでの流れ』

歯科医師：岩下 亜希子

一般的には入れ歯作成は、主に四つの段階を踏んで進められます。

第一段階では、お口の形に合った**型取り**を行います。**第二段階**においては、**噛み合わせ**を決めます。**第三段階**では、**歯を並べた仮の状態**をチェックし、微調整を行います。そして**第四段階**にて、**完成**した入れ歯をお渡しいたします。これにより、概ね約 1 ヶ月ほどで最適な入れ歯をご提供いたします。

※注意事項

完成後には、噛み合わせの調整のため、何度かご来院いただくことがございます。また、保険診療の場合、一度入れ歯を作成した後は、次の入れ歯を作るまでに基本は半年の間隔が必要となりますので、予めご了承ください。

作りかえる場合、全く同じものを次に作るというのはとても難しいため、使い勝手の違う2組の入れ歯を使い分けておられる場合があります。そのような場合、同時に作成した入れ歯は上下セットでお使いいただくことが大切です。もし、複数の入れ歯をお持ちで、どの組み合わせでワンセットが分からなくなってしまう場合は、お名前やマークを入れ歯に刻むことで、識別しやすくすることが可能です。完成前にご相談ください。

